

甲陽軍鑑 35冊 WA 32-1



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
Inches

0 6 - 0 0 1

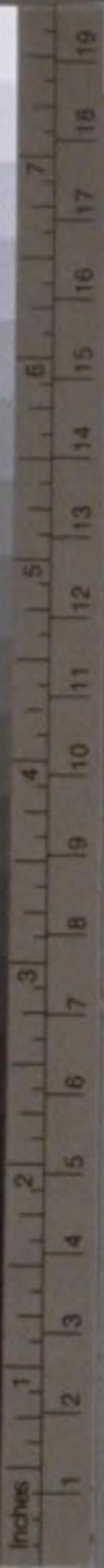
甲陽軍鑑

35冊 WA32-1

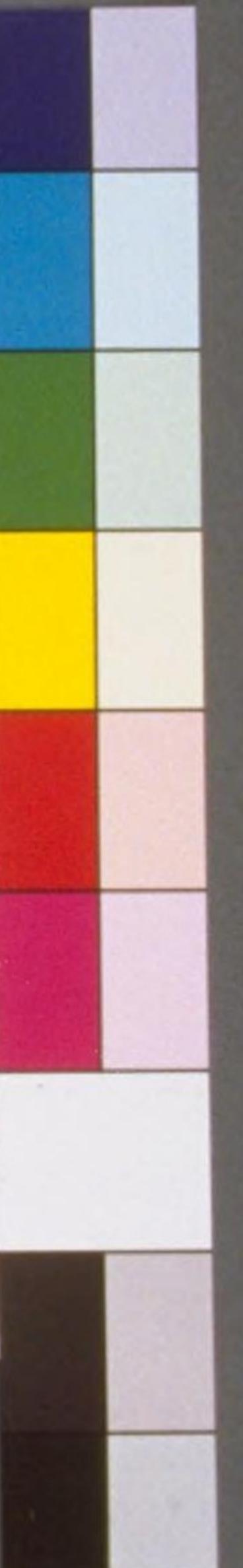


06-002

国立国会図書館



甲陽軍鑑 35 冊 WA 32 - 1



甲陽軍鑑余朝奏



利根川より人持の手

かくてう家と病院

并に中河合林務官事務所



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
Inches

0 6 - 0 0 3



アレナセナキ事、四十度の  
火と火薬の火薬とをもって  
魔の法術を百種としよまつてりん  
この魔術を以て御身をそなへておる  
人侍よりひきこめてお車のまき  
の御入法事  
御身をそなへてお車のまき  
の御入法事  
御身をそなへてお車のまき  
の御入法事  
御身をそなへてお車のまき



國の事の如きを  
はなむにあつてはまづのうへ  
とひはのうへ。とひはのうへ  
とひはのうへ。とひはのうへ

とひはのうへ

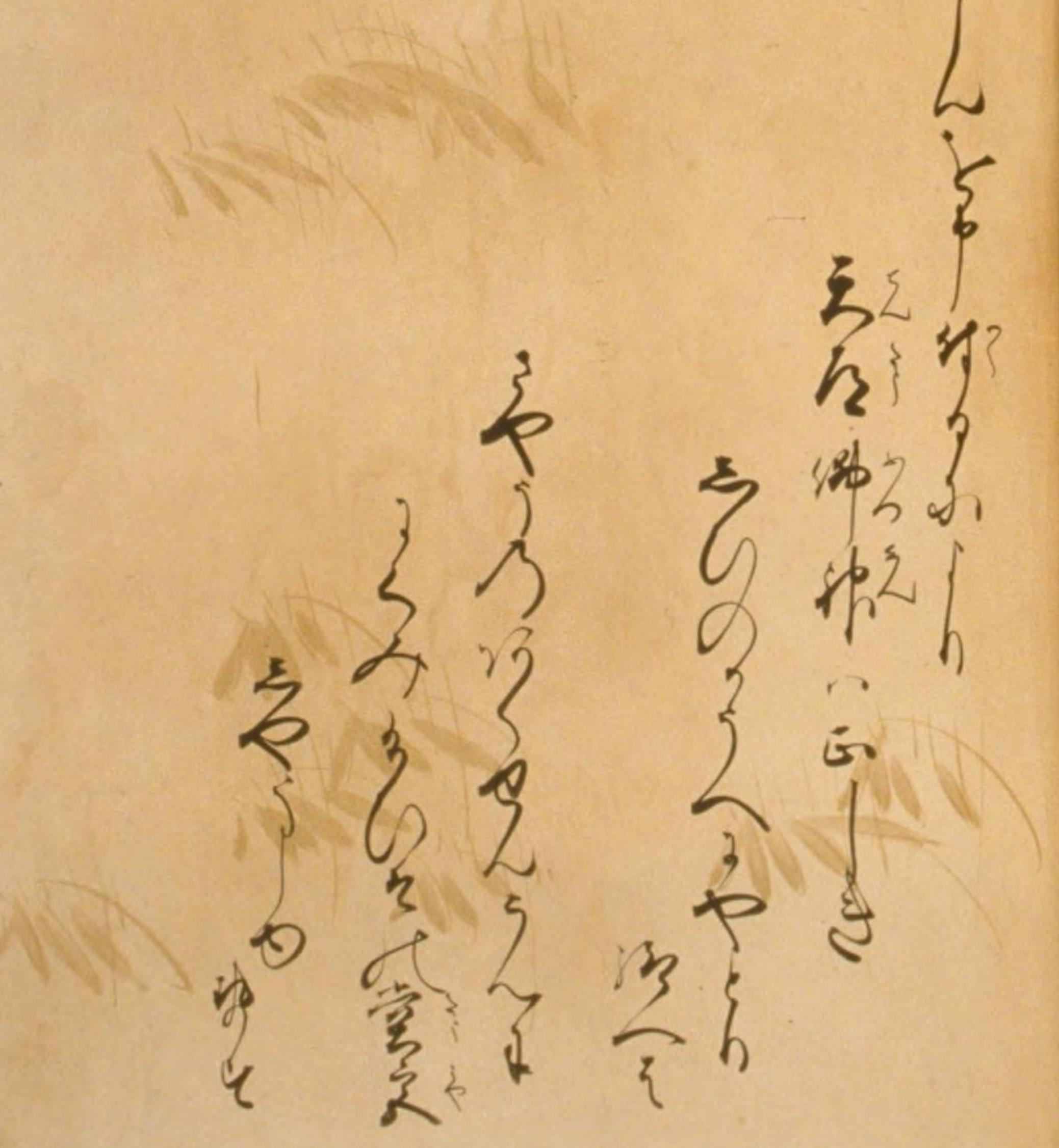
とひはのうへ

とひはのうへ

とひはのうへ

とひはのうへ

とひはのうへ

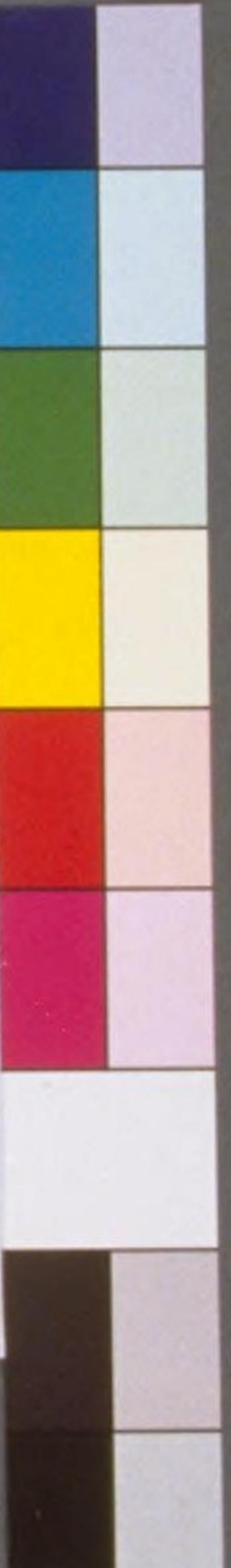




06-007

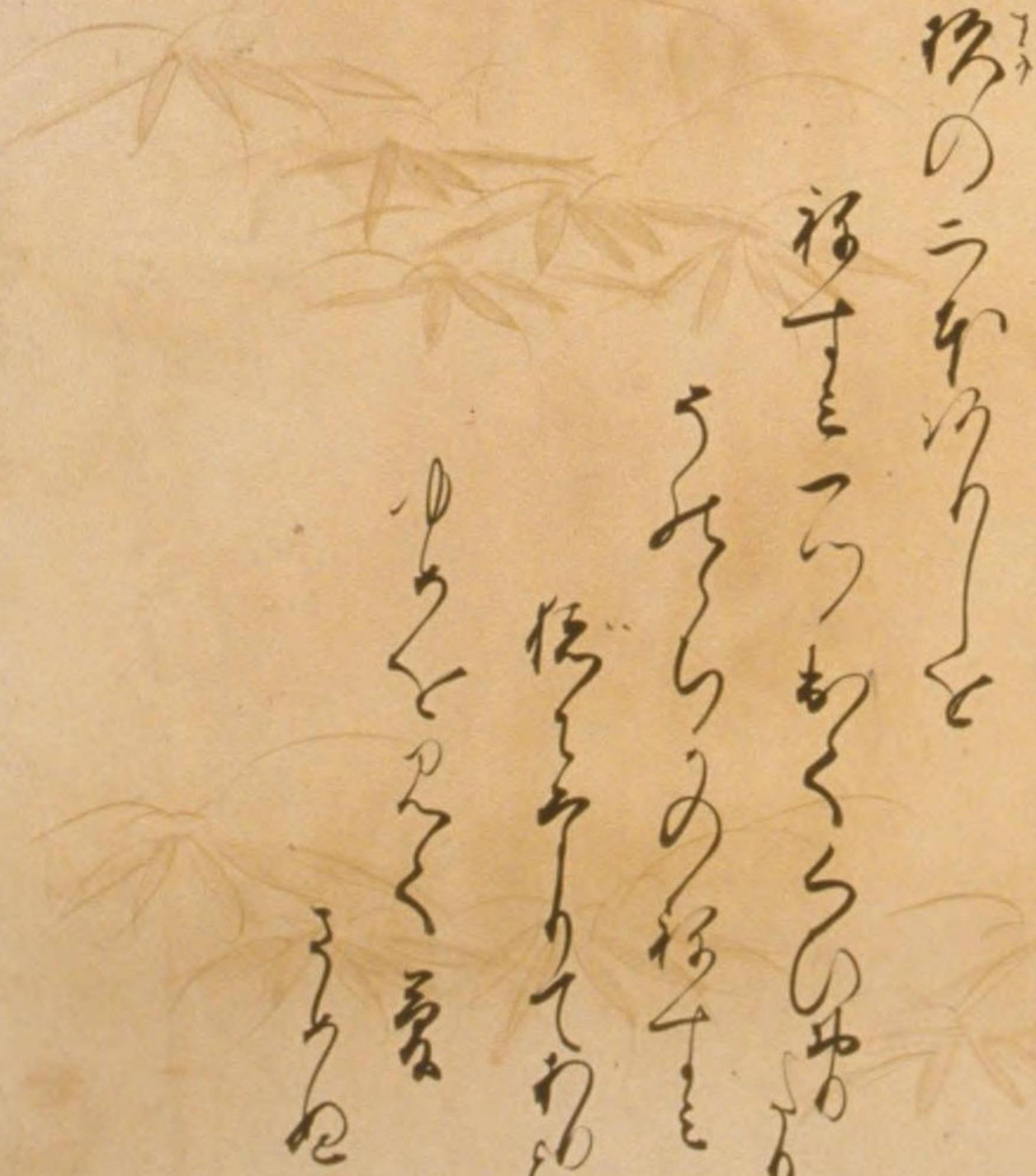
61  
60  
59  
58  
57  
56  
55  
54  
53  
52  
51  
50  
49  
48  
47  
46  
45  
44  
43  
42  
41  
40  
39  
38  
37  
36  
35  
34  
33  
32  
31  
30  
29  
28  
27  
26  
25  
24  
23  
22  
21  
20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
0

ナラウキテシル事あり凡て  
ヤムクニトアツムカガモム  
トハ此の御ミテモセテナシ  
ヨリノクニモ一ツアラント  
モナムトアツムシマエラス  
シテナシトアツムシマエラス  
ナナ年三月の事モニテ  
ノリウリヤマノトシヒミツ  
聖善權之門トウシテモヤム  
シテ二年一月の事モニテ  
ナリセ人合ハシシキアリタ  
ナリシラニ事多モセノキム  
注金ウリする今川ナラム  
トドケテナリヤハシナリテ  
ナリシラム今川ナラムシナリ  
ナリシラム今川ナラムシナリ  
ナセヒトリテナシラムシナリ



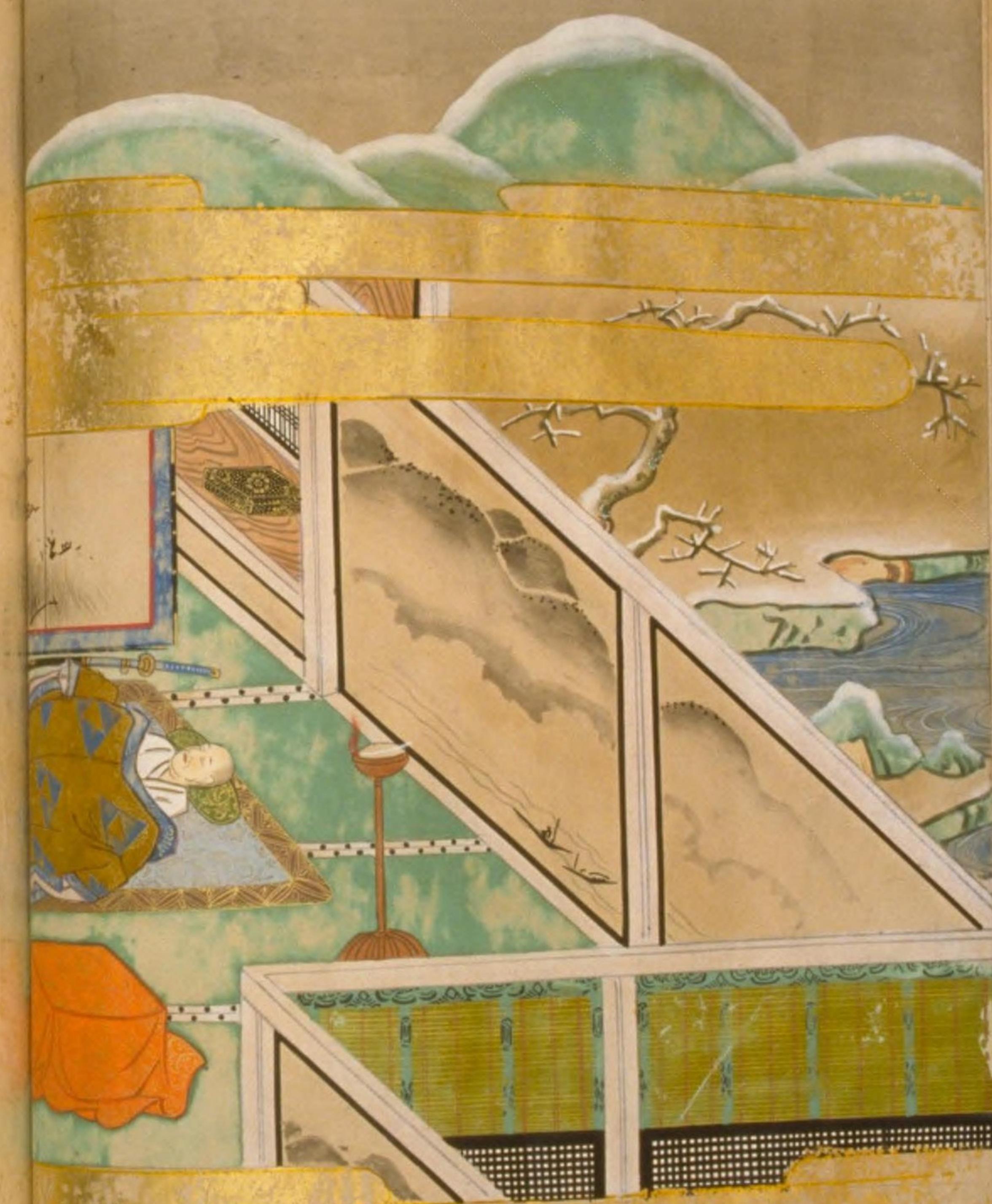
わののむはるのとくのむはる  
まよひよひのむはるのむはる  
ほりかとひのむはるのむはる  
きのうへとひのむはるのむはる  
とくさうふのむはるのむはる  
もひやうふのむはるのむはる  
らのちへれわのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
とくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる

かととくんくにゆのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる  
まくらはまわふのむはるのむはる



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

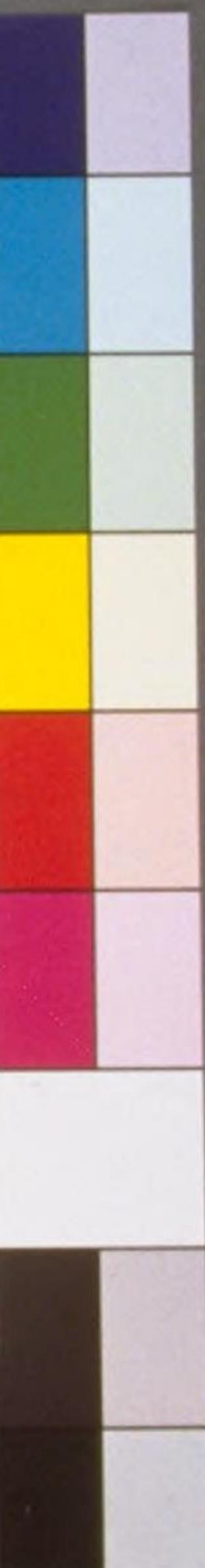
600-90



まのへぬく夜中  
 もとて見ゆる事も  
 ベニ六時半  
 わすけりやう  
 のじ夜家  
 うまにうりや  
 ことやうて家もの  
 うかうち活  
 うねきのあた  
 てうきひゆ  
 とり羽引  
 うみと  
 まくら  
 まくら一石  
 まくら

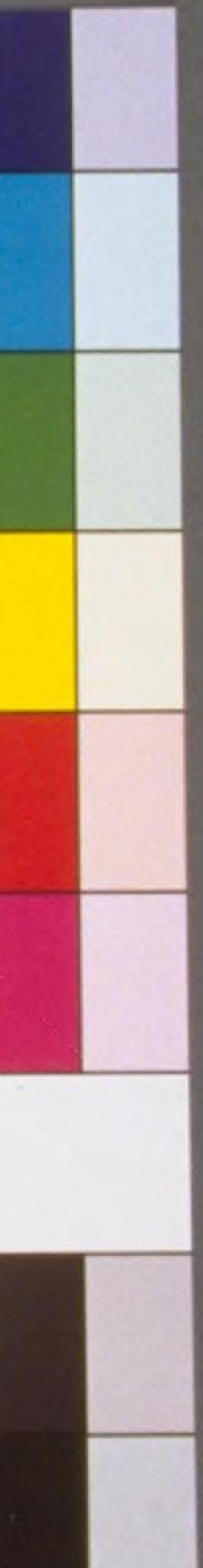


のまじりあつた。この年もとわくみ  
と夜長とぞありす。口と夜はとく  
てキサウム。下宿わきから  
トセテシカ。引ひき、とくのつま  
とくにたとくのうちキサウム。で  
あくらう。とくのよつてての森の  
せいかん。まきとぞ夜々人ね二十分と  
り見て。十五万石。一石五  
とく店う。千人。七百石。ナセシ。三石  
のへ。一石五。大半のへ。ま  
まのへ。う。まく。と。お。ま。の。お。か。と。ま  
と。まく。ま。と。お。ま。の。お。か。と。ま  
と。まく。ま。と。お。ま。の。お。か。と。ま  
わ。ま。う。ま。と。ま。う。と。ま。う。と。  
ま。ま。う。ま。と。ま。う。と。ま。う。と。  
ま。ま。う。ま。と。ま。う。と。ま。う。と。  
ま。ま。う。ま。と。ま。う。と。ま。う。と。  
ま。ま。う。ま。と。ま。う。と。ま。う。と。



身のことを思ふと、まことに風呂ふろへ  
入つて小湯おゆを浴ぶるの如く思ひやうかにうつて  
心が良からぬもあらましくつづつに、衰しおると  
せむれと衰しおるに、竟かなりゆえども、  
あすとちのうの御文清室ごぶんせいしつにて、  
やいまとわけうて小隱こひんくともぐる  
居正いざむにて、小毒氣こどくいの小も  
よからず。その如きの氣は、又おのづか  
きて、身みの毒氣どくいも今て二年、もとての  
居正いざむにて、小毒氣こどくいがあつてと思ふも、  
そぞ新御官しんみやくの事ことは、とひの、  
又其そて九年、自じら御飯みやんを食くふ餘あるは餘食よしょくもとて  
御飯みやんひそらへて、其事ことは以ひ後ご古衣こぎ  
服はつ小膳こぜんへまづくを付つけ、十六万の奉せう  
金きんを貰うひ、御飯みやんと御膳ごせんじ  
かくをひへく清きより御飯みやん方かたつ  
や、民膳みんぜんをうりうりとすと、又承うけん御  
三事さんじの事ことをすむまで、とてそ  
まといまほと月つきを辛子きんす年ねんで

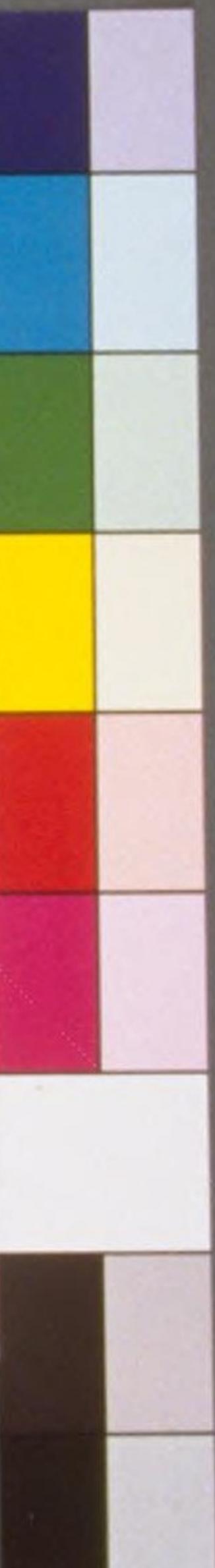
19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



三事ハ列シテ御主也タマシトウノ合タマツカニト  
トくよりアヘンアヒントのム方ムカヒガムト人ヒトヘ  
永ヨミマタトのキムセタリトスリヤ  
シヒヨウノ聲ナガハシメモタヌキタヌキカタハタ  
ハシクハシクのタヌキタヌキトスルトスルタニ  
扇タニヤタニヤタニヤタニヤタニヤ  
トヲ活ハリム方ムカヒニシテトスルセシ歎苦タククハシメ  
シヤハシメタニヤタニヤタニヤタニヤ  
タニヤタニヤタニヤタニヤタニヤタニヤ  
タニヤタニヤタニヤタニヤタニヤタニヤ  
タニヤタニヤタニヤタニヤタニヤタニヤ

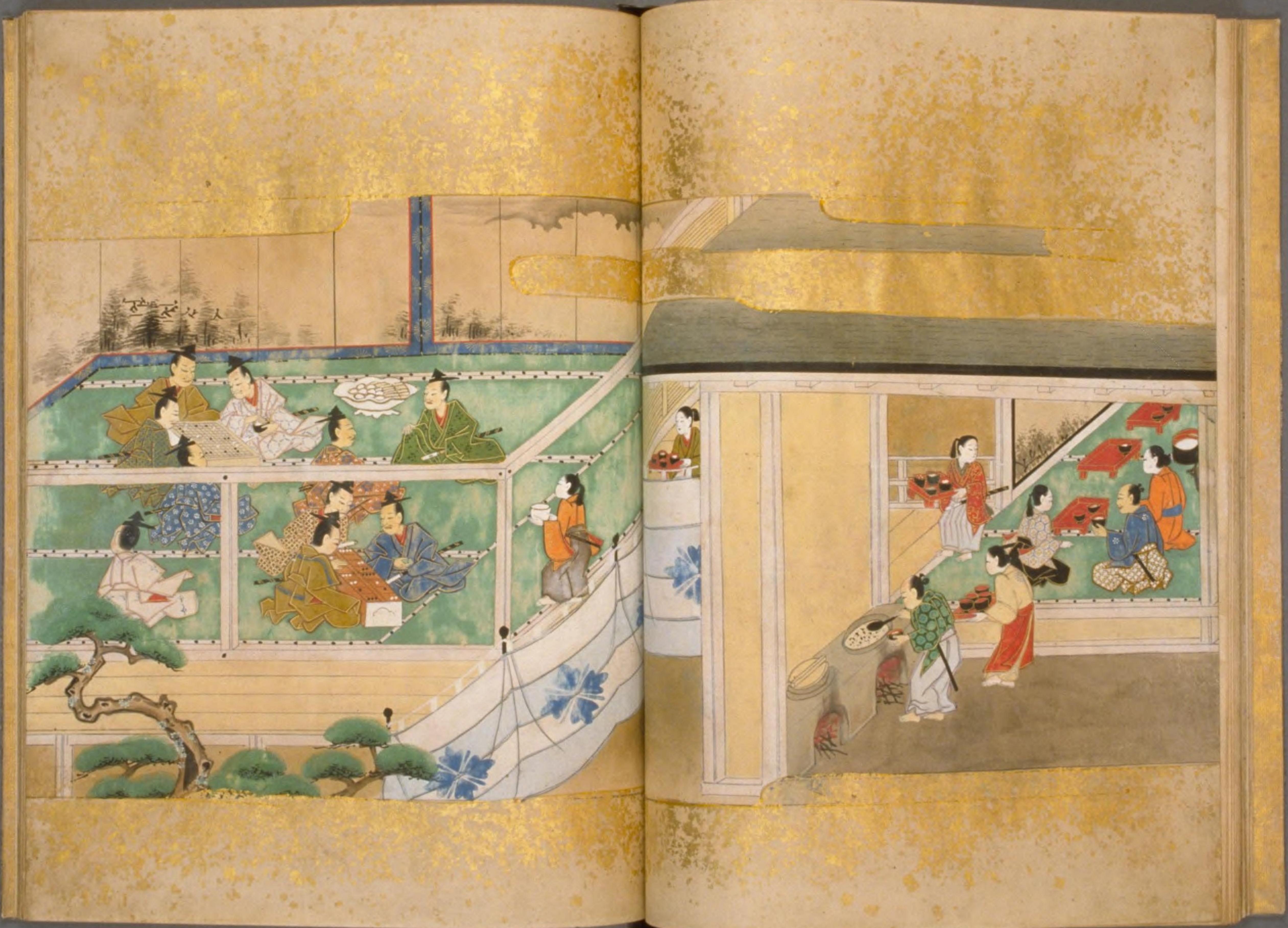


まよひてくわくわく  
かやとおもてられ  
よし道はひのくに  
くけりとよきれどく  
ひくらが原(アシカツラ)  
人ねとう今みゆき  
あくたすとくもく  
よもうと今アツク  
つるめこちゆりす  
いきもののか  
そひ人やくすのん  
じは金(キラ)きはん  
そのへまくぐのま  
くらふりゆくとく  
あくべりくまくま  
まとへとくまくま  
あくまくまくま  
まののくもくもく



かくの如きは木の材の如きをもてて  
作らばれども其の如きは少く大半の  
ものは石となつてゐる。其の如きは  
之に沙泥にて之を固めて作らば  
れどもその如きは少く大半の  
ものは土となつてゐる。其の如きは  
之に沙泥にて之を固めて作らば  
れども其の如きは少く大半の  
ものは土となつてゐる。其の如きは  
之に沙泥にて之を固めて作らば  
れども其の如きは少く大半の  
ものは土となつてゐる。其の如きは  
之に沙泥にて之を固めて作らば  
れども其の如きは少く大半の  
ものは土となつてゐる。其の如きは  
之に沙泥にて之を固めて作らば  
れども其の如きは少く大半の  
ものは土となつてゐる。

吾は師役をもて皆の宿舎へとてか  
シテはくましやへ出づへる事の如  
きの事もあらずとぞ  
ひりやへはゆきに蘇  
ふふくたれとよむの如  
く下人の手と人持らんとてあゝ門の脇  
の間へとてまきへとす  
さへ人町へまわりとてのじてとて  
ちのまへん人たうめりとてとてのま  
へとてまきへとす  
百歩へりてとてのまへん人たうめりとて  
とてのまへん人たうめりとて  
とてのまへん人たうめりとて



06-017

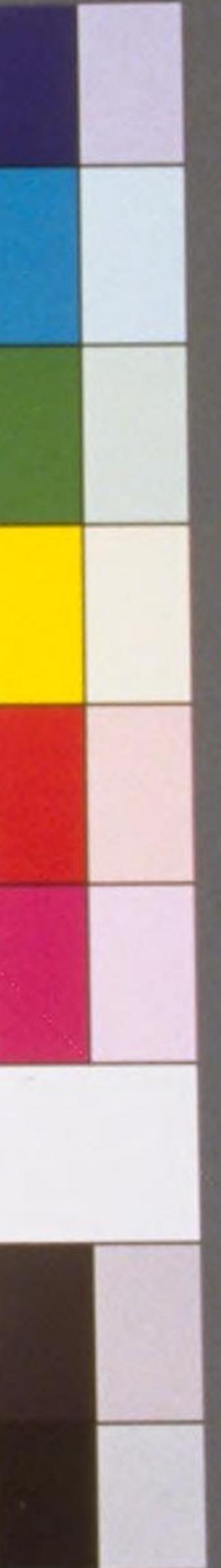
又やうのまにけむる人とお年老ひのむ  
ひそかにまかへてゆきしは見えと  
町人や下人のもととぞくと  
やうやくまかへてゆきしもあれと  
人のまちへやうやく町人見れ  
よとめやうやくましの公  
ののじりとてらふともにあらわらぬ  
やうすれてけんをすのけの奇人  
白き身のまじりやくはまつて  
のりがたまくてのりの筆の物  
りやうとくやうとくにいのうめ  
てむか列じよやうやうとく列  
みよ和室のまのまわらはま  
よみかたのまのまわらはま  
のよみかたのまのまわらはま  
のよみかたのまのまわらはま



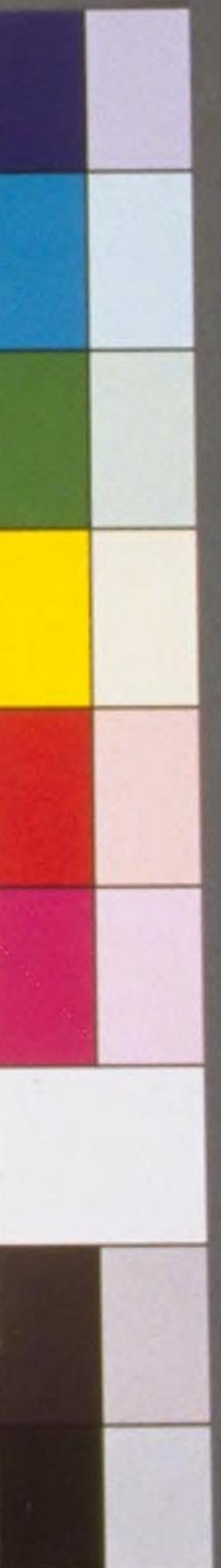
甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1

わざひのこせんとてわざのあやを  
おのくわざやりうさんとておのくわざ  
色くわざとおのくわざとておのくわざ  
は金をかくとおのくわざとておのくわざ  
にほをかくとおのくわざとておのくわざ  
（や）さかとおのくわざとておのくわざ  
（や）さかとおのくわざとておのくわざ  
くのくわざとておのくわざとておのくわざ  
くのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ  
よのくわざとておのくわざとておのくわざ

つらふくらうへひ身をりかへとされ  
さすとて汗のせんとれんへとせすが  
治の御火月五年辛亥も過るとすつま  
くは今われに然へのらふとれんとおれ  
の黒へ一夕へりて名付わゆのもんと  
ま家とあら三男の雅窮不處モ因に淫雅貪  
食礼邦之風と云はれどもあらはれども  
あらぐんにやんかくとてゆてわらはれども  
うしろにゆくわざとくやまくわざとく  
てよ大根よりぬらりぬらりぬらりとくく  
えねじとくらりぬらりぬらりぬらりとくく  
れいおほれとくらりぬらりぬらりぬらりとくく  
くうりへとくらりぬらりぬらりぬらりとくく  
よやくらりぬらりぬらりぬらりぬらりとくく  
むち良ちこくらりぬらりぬらりぬらりとくく  
すよとくらりぬらりぬらりぬらりぬらりとくく  
まふ人多はゆくかよくわらんとくく  
りのれをわゆくとくくとくくとくくとくく



あはれと云ふ事では御所の御番頭とてこのひま  
うきのめのうちまゝでてのうひまの  
おりあすかひやの町へがたのくに  
アタマのあすかひがたのくにあら  
あをつや一へんわもひのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
あをつやとくひのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
あをつやとくひのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら  
アタマのあすかひがたのくにあら



すかはくにひのとくれりの  
やくそくをうながするの  
くまのとくにあらわす  
くまのとくにあらわす  
年ゆめの  
とくにあらわす  
とくにあらわす  
とくにあらわす  
とくにあらわす

06-022

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

Inches



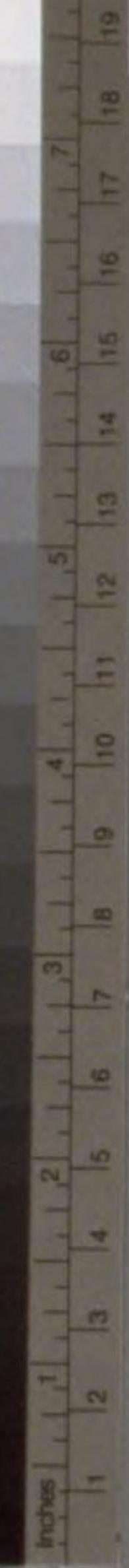
とて、おのれのまへでては、かくのうへ  
國へもどる者、おのれのまへに、  
ちかひりのまへに、かくのうへもどる者  
されば、分かれりて、がわきのひき  
のつむぎに、まくらをなす。おのれ  
のまへを、まくらをなす。おのれ  
のまへを、まくらをなす。  
まくらをなす。おのれのまへを、  
まくらをなす。おのれのまへを、  
まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。  
おのれのまへを、まくらをなす。

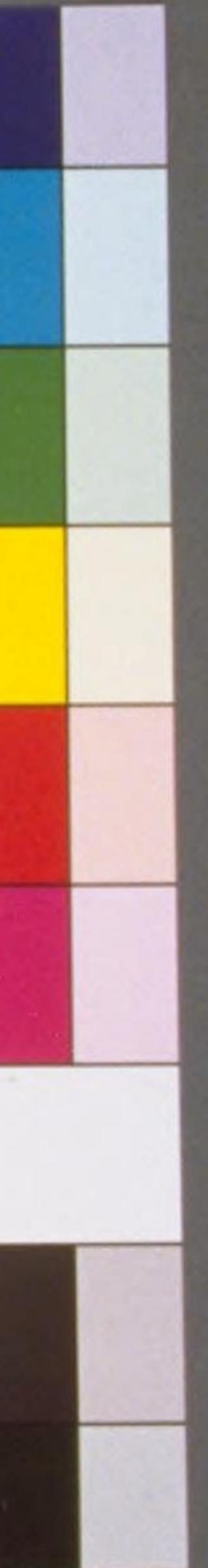
てやうにあらへる。人間の法  
トモとくをわざとそぞろ  
中野の城主となつてはま  
ゆるが、ハア、とてやうにあ  
る。そぞろとてやうにあらへ  
る。さうとてやうにあらへ  
る。とてやうにあらへる。とて  
やうにあらへる。とてやうに  
あらへる。とてやうにあら  
へる。とてやうにあらへる。  
とてやうにあらへる。とて  
やうにあらへる。とてやうに  
あらへる。とてやうにあら  
へる。とてやうにあらへる。

下るべからず小石竹の花をうかがふ  
而してうさんきのとやうひくうそを  
おほほむのよへらわづこひのうてむ  
くらうすくち小あからくいふと  
れんががくすくとへひとくのく  
利とくくせんとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
人氣がけら十時半へと十時半に半  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
あざくれ人氣がくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく



之無能也。豈止不善也。而無人者  
知其無能也。苟知其無能也。則  
無人者自知其無能也。不以爲  
小人也。則可矣。夫非小人也。則  
不以爲小人也。不以爲小人也。則  
不以爲小人也。不以爲小人也。  
不以爲小人也。不以爲小人也。





の事はまことに御心を知る所  
アリスル事也。トモアリハ、  
シテアリハ、又思ふ事也。  
まつて、自らをもとと科  
取る事、アリハ、  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。  
シテアリハ、又思ふ事也。



三二、  
さくらんぼの皮はかじり取る  
て皮を剥ぎ下す。皮を剥ぐ  
よのへしは、水に落す。  
やくそくは、皮を剥ぐと  
えぬで、やうべにはくのきをとて  
のうとくもおからうのままで  
くちあくわいひのちを  
かへはくよちのうす。群鹿  
てりや群鹿とてりや群鹿とて  
のうとくもおからうのままで  
くちあくわいひのちを  
かへはくよちのうす。群鹿  
てりや群鹿とてりや群鹿とて

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
Inches

06-029

おとてまもりとくわうすにんじゆ  
こかみのとくのくもとのゆへゆる  
くよみかわいじん。ニテはてまく  
くくのをひきまくしんし筆  
のとれにてまくらひりうふ  
まくらわくちくまくらわく  
いづやすくわくわくわく  
くにゆくくわくすくわく  
すくはまくのくにゆくわく  
内音歌のふ原隼人さすを多くと歌ゆる  
つづくくうとうのくにゆくわく  
くにゆくくうとうのくにゆくわく  
くにゆくくうとうのくにゆくわく  
くにゆくくうとうのくにゆくわく  
くにゆくくうとうのくにゆくわく  
アラモト射矢おほてむてむてむて  
アラモト射矢おほてむてむてむて

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
Inches

060-030



06-031

19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
Inches



往のうそはいとよしにとすかくひぐれ  
うひたうへは川とうといえのゆと  
とくとくとまやううてすじゆまわ  
と御虎とくとくとくとくとくとくと  
ちのりておまくとくとくとくとくと  
うかくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
川とくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとく

（水）一水、福久年、の立て、月、あき、西  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

0 6 - 0 3 2

ひのうすとてよしむらの元服のとこ  
をそつとくわざとせんせんに先達様  
をひらくひうまく方へ院や院をりて  
とくまとりくわざとあゆみのとよ  
わざとくわざとくわざとくわざとくわざ  
たゞきのえはのとよとよとよとよとよ  
れりはんてんてんてんてんてんてん  
ひきねりひきねりひきねりひきねり  
のべんじふくふくふくふくふくふく  
金立の法は天下あすけいわくわく  
こころとくとくとくとくとくとくとく  
へ金立とくとくとくとくとくとくとく  
かほりゆうとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく



田山にゆらをさへしてゐる所の如く  
 ひろひろとまきりせず其のまゝの氣で書か  
 ほけたそれが筆の事であつて筆の到處を  
 てこよここよこする所の如くはおのづ。  
 そぞくそぞくめぐらしくてあらうと書く  
 そぞくそぞくとすての字はわざわざ書く  
 すててこよこよする所の如くはおのづ。  
 今川にゆらをさへしてゐる所の如く  
 ひろひろとまきりせず其のまゝの氣で書か  
 ほけたそれが筆の事であつて筆の到處を  
 てこよここよこする所の如くはおのづ。

田山にゆらをさへしてゐる所の如く  
 ひろひろとまきりせず其のまゝの氣で書か  
 ほけたそれが筆の事であつて筆の到處を

甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



06-035

Inches  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

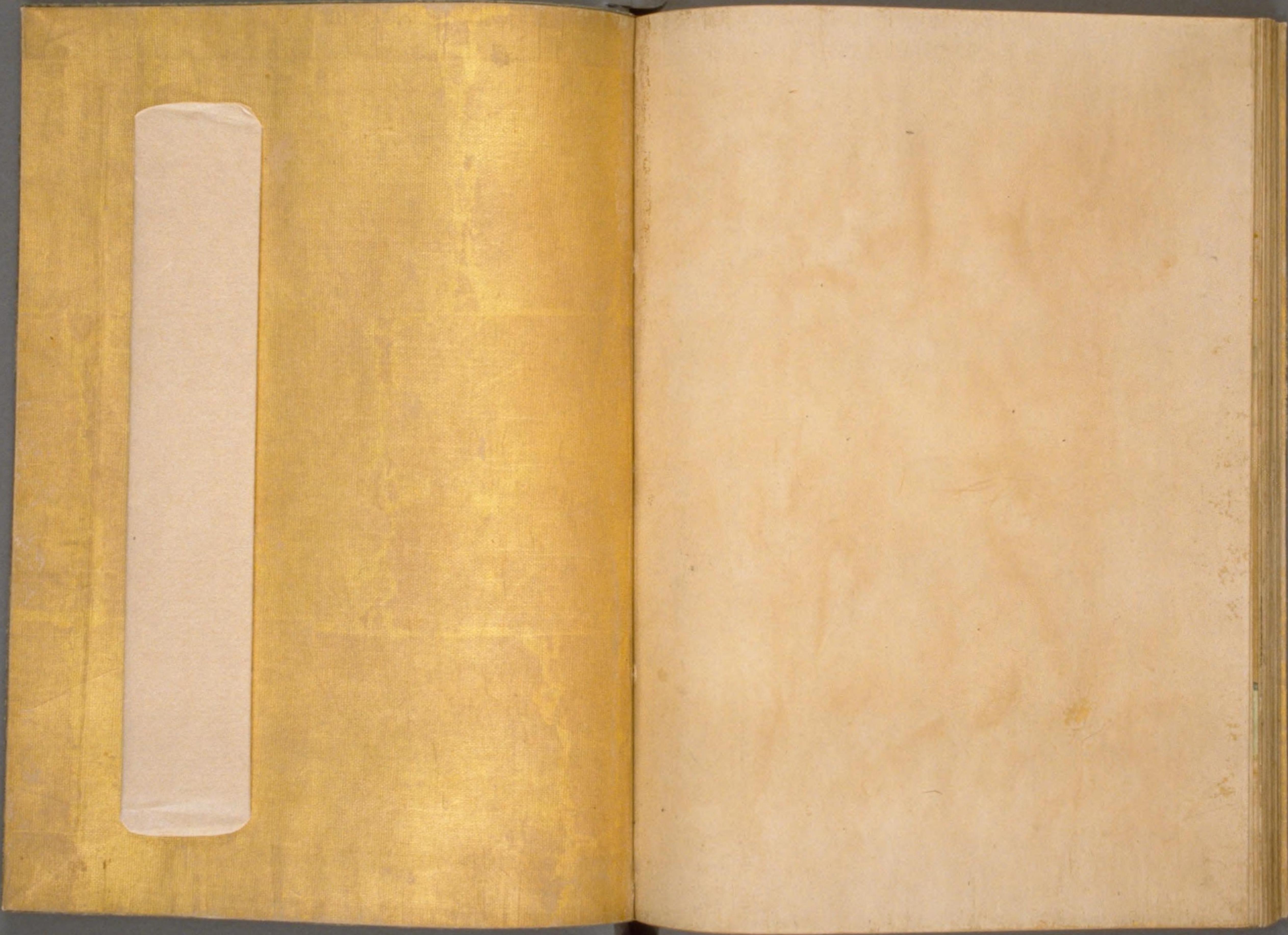
是年乙未底の事に法吉はすく而も  
さうぞれとてそつまんのあらわらを  
のよこしておはしたるにばかりへともく  
しりりりりりりりりりりりりりりりりり  
とせんぐくとせんぐくとせんぐくと  
石城町へのとせんぐくとせんぐくと  
むさりがよろへとせんぐくとせんぐくと  
じゆうのれた、人をひくとせんぐくと  
はきわもくとせんぐくとせんぐくとせんぐくと  
きうきゅうかゆくとせんぐくとせんぐくと

ワタリウシハシテテウチのまへ  
ナリキレハシト今て一モニミモ  
シテのまへスヨリハシモセラ  
モシテスカサヘタリナリタマ  
トマリヒトリスルハシアリハシ  
シテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ  
ハシモシテスカサヘタリナリタマ

壬午年六月吉日 高坂率參記

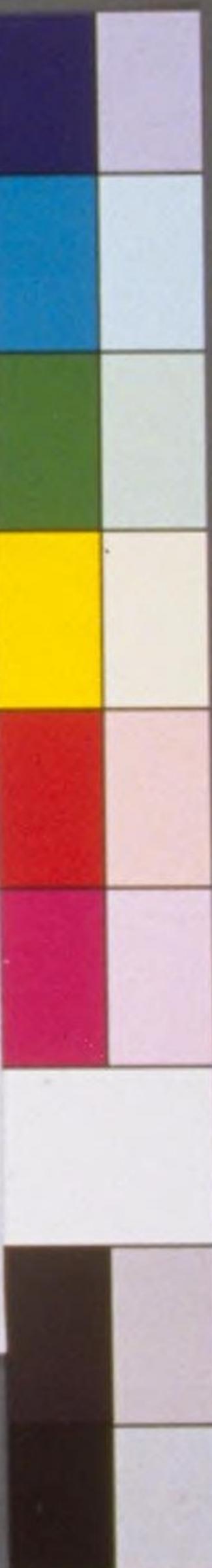


甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



06-038

国立国会図書館



甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



06-039

Inches  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

日本圖書館